

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320012

研究課題名（和文） 旅順博物館所蔵非漢字資料に関する総合的研究

研究課題名（英文） The Synthetic Study on Non-Chinese Materials held in the Lushun Museum

研究代表者

三谷 真澄 (MITANI MAZUMI)

龍谷大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：20411275

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国・旅順博物館が所蔵する大谷探検隊収集の中央アジア出土資料のうち、解明の進んでいなかった33件433点の非漢字資料の総合調査を遂行した。大谷探検隊収集資料という点で近親関係にある龍谷大学所蔵資料との関連や、世界各国に分蔵される断片との接合、及び、半数以上を占めるブラーフミー文字資料のみならず、ウイグル、ソグド文字資料の内容について出版物を刊行した。

研究成果の概要（英文）：This research carried out comprehensive investigation of the non-Chinese manuscripts(33 items and 433 materials) held in Lushun Museum in China. These materials were excavated in Central Asia and brought by Otani mission in the early 20th century.

We published about the contents of these manuscripts not only written in Brāhmī character but also Uighur and Sogdian characters. And through this research, we made clear relationship of the fragments held in Ryukoku University as the Otani collection, and indicated an example of junction of the fragments separated to several countries in the world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2009年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2011年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：仏教学・仏教文化学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：旅順博物館・大谷探検隊・非漢字資料・写本・中央アジア・国際情報交換・中華人民共和国

## 1. 研究開始当初の背景

旅順博物館は外国人未解放地区に位置している。大正6(1917)年に創立した同館は、60,000点を越える文物を所蔵しているが、そのうち「新疆出土文物」と呼ばれる資料が、明治35(1902)年から大正3(1914)年にかけて行われ

た大谷探検隊の収集品に他ならない。大谷探検隊は、大谷光瑞師によって派遣されたもので、日本にまで伝えられた仏教東漸の道を踏査し、インド・東南アジア・チベットなど広範な仏教伝播のルートを解明しようとする、仏教者としての事業であった。その収集品は、

種々の事情から、龍谷大学を含む日本、中国、韓国に分散してしまっただが、その一部が旅順博物館に保管されているのである。

その資料は、陶器・泥塑・陶塑・木器・貨幣・宗教絵画・紡績品・文書・その他に分類され、計 1,714 件に及ぶ。大谷探検隊が主要な収集対象とした仏典を中心とする文書資料は、漢字資料と非漢字資料に大別され、前者は 97 件約 26,000 点、後者は 33 件 433 点が蔵されている。

漢字資料については、平成 14(2002)年度より平成 17(2005)年度にかけ、科学研究費補助金(研究代表者: 上山大峻氏)の交付を受け、同館所蔵の漢文仏典写本及び版本の共同研究が行われた。ほぼ所期の目的を果たし、平成 18(2006)年に、元康六年(296)書写の『諸仏要集経』写本の離片 14 点を含む 1,429 点の断片を収録した図録、及び研究論文集として結実した。

一方、非漢字資料については、故蒋忠新氏により整理研究が行われ、平成 4(1992)年にサンスクリット語写本の『法華経』45 点のほか、『仏説十力経』や『金光明経』の写本断片の存在が確認されている。その成果は、平成 9(1997)年に非売品として出版されたが、『法華経』以外のサンスクリット語写本を含むブラーフミー文字や、ウイグル文字・ソグド文字・チベット文字などの非漢字資料の全体像については、これまでほとんど知られることがなかった。

本学は、創立以来 370 年に及ぶ仏教学研究の伝統を有し、昭和 28(1953)年に発足した西域文化研究会の学際研究の蓄積を基盤として、平成 4(1992)年に始まる学術交流によって旅順博物館と友好関係を維持している。また、非漢字資料の分野で世界的業績を挙げているドイツ・トルファン研究所との共同研究の実績もあり、世界的規模で中央アジア出土文書のデジタル化を進めている大英図書館国際敦煌プロジェクト(IDP)とも連携している。

本研究は、本学に対する国内外の学術的要請に応えるものであり、ほぼ解明された漢字資料に非漢字資料の研究成果を加えることによって、旅順博物館所蔵の文書資料の全容を解明しようとして企画したものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、中国・旅順博物館が所蔵する大谷探検隊収集の中央アジア出土資料のうち、これまで解明の進んでいない非漢字資料について同館員と協力して調査研究を行い、図版を含む全点目録の刊行を企図するものである。

## 3. 研究の方法

本研究は、研究分担者・上山大峻氏によってなされた同館所蔵の新疆出土漢字資料の研究実績に基づき、33 件 433 点をはじめとする非漢字資料に関する総合的・学際的研究を行う。

具体的には、先ず、当該資料について事前準備を周到に行う。そして全資料の概要を把握した後に、IDP で採用されている国際規格に則りデジタルカメラによる全点撮影を行う。そして、文字・言語による分類を行った後に、各言語を専門とする研究分担者に依頼して、読解研究を行う。その結果と断片の書誌情報を加えた画像データベースを作成する。

最終年度には、研究成果として図録を刊行し、国際学術会議を開催するとともに、その内容を研究論文集として発刊する。

## 4. 研究成果

(1)ブラーフミー文字、ソグド文字、ウイグル文字資料について、それぞれ研究分担者・若原雄昭氏・吉田豊氏・松井太氏に依頼して内容分析を行った。特に、ブラーフミー文字サンスクリット語写本については、研究協力者・那須良彦氏に、同トカラ語写本については同・荻原裕敏氏にウイグル語資料については同・橘堂晃一氏に依頼して、新発見資料の同定に成功した。詳細は、以下の(5)出版物の項に記載する。

(2) 旅順博物館所蔵の非漢字資料データベースを作成し、双方の研究者間でデータの共有を行った。

(3) ガラス板2枚に非漢字資料を夾入した、整理番号「20.1550」から「20.1582」までの433点の資料について、連携研究者・岡田至弘氏の協力を得て、コンピュータによる画像解析等の科学的手法に基づき、原資料の紙色の復元作業を完遂し、旅順博物館側にデータを提供した。

(4)2011年10月10日・11日に、「中央アジア出土の仏教写本」と題する国際学術シンポジウムを開催した。旅順博物館より郭富純館長、王振芬副館長、董焯氏、大連市文化局より王家勝副局長を招聘し、公開講演会・学術討論会を開催した。同時に、ドイツブランデンブルク人文科学アカデミー・Simone-Christiane Raschmann 氏、同トルファン研究所・笠井幸代氏、トルコイスタンブール大学・Osman Fikri Sertkaya 氏を招請し、同地域出土資料の研究状況についての報告をうけた。

(5)最終的な研究成果として、上記シンポジウムの内容を基にした『中央アジア出土の仏教写本』を刊行し、内外の研究機関や研究者に配布した。

この刊行物では、総論として、旅順博物館とのこれまでの共同研究の経緯と同館所蔵の非漢字資料の概要、龍谷大学所蔵資料との関係を明らかにした。

各論としては、

龍谷大学所蔵のブーフミー文字サンスクリット語『法華経』写本(ガラス夾入断片)資料が、旅順博物館所蔵資料と同様に、ミロノフが1923年に整理した資料群の一部であることが判明し、併せて両機関に分蔵される資料に同一写本の断片が含まれることを発見した。

旅順博物館所蔵の非漢字資料全体の過半数を占めるブーフミー文字資料は、『法華経』写本が大多数を占め、断片的なものが多いが、その中で、従来知られていなかった、漢訳『雑阿含経』「覚支相応」に対応するサンスクリット語文献の存在を示した。

ブーフミー文字トカラ語資料については、宗教文献(仏典)174点、世俗文書10点、計184点というまとまった点数が存在することが判明し、その概要を提示した。特に、当該資料の中からドイツトルファン研究所所蔵資料との接合断片も発見されたことが注目に値する。この表面は漢字面で『法華経』写本であり、裏面は、ウイグル語とトカラ語Bのbilingual断片であった。

ウイグル文字で書かれた仏教文献や世俗文書の内容を紹介した。前者については、『大乘無量壽經』をはじめとする主要5点の内容を録文とともに提示した。

後者は、首尾完結したものがなく、非常に断片的で、単独で十分な内容をもつものは皆無であったが、可能な限り録文して資料を回収した。

ソグド文字資料の全体像を進めることができた。保管形態の観点から、1:ガラスに夾入されたもの(5件6点)、2:「藍冊」に貼付された漢字資料の裏面に書かれたもの(4点)、3:漢文仏典の細片の補修により回収されたもの(6点)の、3グループ計16点の内容を紹介した。本研究課題の主たる研究対象であった第1グループの資料は全てマニ教文献であることが判明した。

大谷探検隊とドイツトルファン隊とは、同時期に同地域を探検して膨大な文献資料を収集したという点で共通している。その緊密な関係は、すでに多くの研究成果の蓄積によって明らかであるが、ドイツブランデンブルク人文科学アカデミー・トルファン研究所やト

ルコイスタンブル大学との相互の連携研究の重要性を再確認することとなった。

当初計画では、全点図録も刊行する予定であったが、中国側の都合により割愛せざるを得なかった。しかし、本研究課題の遂行によって、旅順博物館所蔵の非漢字資料の概要を提示し、従来の漢字資料に関する共同研究と併せて、同館所蔵の文献資料の全体像と、その学術的意義を示すことができたと考える。

旅順博物館は、現在は解放され自由に見学できるようになったが、長い間外国人立入禁止区域にあった。今回の共同研究は、1992年以来20年にわたる龍谷大学との学术交流の成果でもある。内外の研究者の参画を得て完結した本研究課題は、原資料の初公開を含む最新情報を多数提示することができ、仏教文献学や仏教史、および中央アジア史の研究に寄与するところ大であると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計47件)

松井太「敦煌出土西夏語佛典に挿入されたウイグル文雑記」弘前大学人文学部『人文社会論叢(人文科学篇)』27, pp.59-64,2012 査読無

YOSHIDA Yutaka “Some new readings in the Sogdian version of Karabalgasun Inscription” M. Ölmez et al. (eds.) *From Ötüken to Istanbul. 1290 years of Turkish (720-2010)*, Istanbul pp.77-86,2011,査読有

YOSHIDA Yutaka “Découvertes récentes en Chine et au Japon. Peinture manichéennes et documents sogdiens (VIIIe – XIIIe s.)” *Annuaire résumé des conférences et travaux* (Ecole Pratique des Hautes Études. Section des sciences historiques et philologiques) 142e année, 2009-2010[2011] pp.57-59,2011,査読有

吉田豊「仏教ソグド語断片研究(II)」『西南アジア研究』75, pp.1-10,2011 査読有

吉田豊「ソグド人と古代チュルク族との関係に関する三つの覚え書き」『京都大学文学部研究紀要』50, pp.1-42,2011,査読無

松井太「古ウイグル語文献にみえる「寧戎」とベゼクリク」『内陸アジア言語の研究』26, pp.141-175,2011,査読有

松井太「敦煌出土のウイグル語曆占文書：通書『玉匣記』との関連を中心に」弘前大学人文学部『人文社会論叢(人文科学篇)』26, pp.25-48,2011,査読無

三谷真澄「旅順博物館所蔵の漢文無量壽経

写本』『宗教研究』83-4 pp.409-410,2010,査読有

吉田豊「新出のソグド語資料について—新米書記の父への手紙から：西巖寺橋資料の紹介を兼ねて—」『京都大学文学部紀要』49 pp.1-24,2010,査読無

松井太「西ウイグル時代のウイグル文供出命令文書をめぐって」弘前大学人文学部『人文社会論叢(人文科学篇)』24,pp.25-53,2010,査読無

松井太著、廣中智之譯「吐魯番出土回鶻文書中所看到的七康湖和其灌溉」『吐魯番學研究』(新疆吐魯番學研究院)2010-1,pp.79-81,2010,査読無

MATSUI Dai "Uigur Manuscripts Related to the Monks Sivšidu and Yaqšidu at "Abita-Cave Temple" of Toyoq" 新疆吐魯番學研究院(編)『吐魯番學研究：第三屆吐魯番學暨國際歐亞游牧民族的起源與遷徙國際學術研討會論文集』上海古籍出版社 pp.697-714,2010,査読無

A.G.セルトカヤ(著)三谷真澄(訳)「イスタンブール大学図書館にどのようにトルファン出土文書が移管されたか？」龍谷大学『仏教文化研究所紀要』第47号,pp.68-76,2009,査読無

上山大峻「出土文献と仏教史研究—敦煌資料研究からの発言—」『仏教史学研究』52-1,pp.70-98,2009,査読無

[学会発表](計56件)

YOSHIDA Yutaka "Picture version of Mani's Book of the Giants"アメリカ東洋学会第222回大会(招待講演)、2012年3月17日、ボストン市

上山大峻「敦煌出土文献にみる草創期のチベット仏教」龍谷大学仏教文化研究所「仏教文化セミナー」龍谷大学アジア仏教文化研究センターユニット2研究会、2012年1月23日、龍谷大学

三谷真澄「仏教写本のデジタルアーカイブ—旅順博物館との共同研究の現場から」人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2011)「花園大学・龍谷大学ジョイントセッション仏教資料のデジタル化と公開・活用をめぐって」、2011年12月11日、龍谷大学

三谷真澄「大谷探検隊収集の漢字仏典」日本印度学仏教学会第62回学術大会パネル発表「大谷探検隊をめぐる新研究」、2011年9月8日、龍谷大学

吉田豊「大谷探検隊将来のソグド語仏典について」日本印度学仏教学会第62回学術大

会パネル発表「大谷探検隊をめぐる新研究」(招待講演)、2011年9月8日、龍谷大学

MATSUI Dai "Yarliŋ as not seen in the Old Uigur administrative orders from East Turkistan" International Workshop: Comparative Research on Iranian-Islamic and Mongolian-Chinese Aspects of the Ardabil Documents in the Ilkhanid-Mongol Period(招待講演)、2011年7月15日、大阪大学

吉田豊「江南の宇宙図とトルファンのマニ教画：『巨人の書』をめぐって」2011年6月5日、大和文華館

MATSUI Dai "Borun and Borun-luq in the Old Uigur legal documents" Beşbalıklı Şin gko Şeli Tutung Anısına Uluslararası Eski Uygurca Araştırmaları Çalıştayı (招待講演)、2011年6月5日、Türk Dili Kurumu (Ankara, Turkey)

三谷真澄「龍谷大学と旅順博物館の非漢字資料—その意義と保存状況」古典籍デジタルアーカイブ研究センター2010年度研究集会・国際敦煌プロジェクト研究シンポジウム、2010年7月13日、龍谷大学

上山大峻「旅順博物館と大谷探検隊将来資料」『旅順博物館蔵仏教写本国際研討会』、2010年3月29日、龍谷大学

吉田豊「中央アジア出土のソグド語資料」『旅順博物館蔵仏教写本国際研討会』、2010年3月29日、龍谷大学

MITANI Mazumi "A Joint Research on Chinese and Non-Chinese Buddhist Manuscripts in Ryukoku University and Lushun Museum" (龍谷大学・旅順博物館の漢字・非漢字仏典写本に関する共同研究) Berlin Turfanforschung, Collegium Turfanicum 45、2009年12月12日、Berlin Turfanforschung  
三谷真澄「紙と錦—龍谷大学と旅順博物館コレクションの織りなす色世界」(ポスター発表)「古典籍デジタルアーカイブ研究センター2008年度研究集会」International Workshop on History of Color in Asia、2009年3月19~20日、龍谷大学

三谷真澄「旅順博物館所蔵の浄土教写本について」『旅順博物館首届専門家年会暨国際学術研討会』2008年9月20日、中国・旅順博物館

[図書](計17件)

旅順博物館・龍谷大学共編(主編：郭富純・三谷真澄)『中央アジア出土の仏教写本』旅順博物館・龍谷大学(非売品)印刷製本：日本写真印刷、168p、2012、

(上山大峻「仏教文化史研究における出土資料の意義(pp.11-15)」、郭富純「旅順博物

館と西域文物(pp.17-23)」、王振芬「旅順博物館蔵中亞出土非漢文資料基本情况(pp.27-30)」、三谷真澄「旅順博物館と龍谷大学の非漢字資料(pp.31-35)」、吉田豊「旅順博物館所蔵のソグド語資料(pp.39-53)」、松井太「旅順博物館所蔵のウイグル語世俗文書(pp.55-59)」、橋堂晃一「旅順博物館所蔵のウイグル語仏典(pp.61-70)」、若原雄昭「評介大谷收藏品中的梵文写本—為重新編撰描述性写本目录所作的准备工作—(pp.73-87)」、那須良彦「旅順博物館所蔵のサンスクリット仏典—LM20\_1573を中心として—(pp.89-96)」、荻原裕敏「多様な中央アジア仏教におけるトカラ仏教の位置づけ—旅順博物館所蔵資料を中心として—(pp.97-122)」、Simone-Christiane Raschmann "The Union Catalogue of Oriental Manuscripts in German Collections and the cataloguing of the Berlin fragments of the apocryphal sūtra *Sākiz Yūkmāk Yaruk* (pp.125-132)"、KASAI Yukiyo "The Non-Chinese Materials in the Berlin Turfan Collection and their edition (pp.133-143)"、Osman Fikri SERTKAYA "ALMAN SEFERLERİ KAZILARINDA TURFAN'DA BULUNAN VE HALEN İSTANBUL ÜNİVERSİTE KÜTÜPHA NESİNDE KORUNAN BELGELER (pp.145-157)" )  
能仁正顕編『西域 流沙に響く仏教の調べ』(龍谷大学仏教学叢書2)自照社, 304p, 2011 (三谷真澄: 第2章「西域出土の仏教文献」 「2 大谷コレクションと敦煌資料 (pp.27-51)」、 「3 トルファン資料の意義—旅順博物館資料を中心として(pp.52-88)」執筆)  
松原広志・須藤護・佐野東生編『文化交流のエリアスタディーズ—日本につながる文化の道』(三谷真澄: 「南アジア・中央アジアからの仏教の伝播と交流(pp.244-269)」執筆)ミネルヴァ書房, 260p, 2011  
龍谷大学龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞—インドから日本への軌跡』法蔵館 (三谷真澄: 第一部「釈尊」第二章「釈尊の教えと経典」第二節「教えの継承 (pp.35-37)」、第三節「経典の成立と展開 (pp.40-42)」、若原雄昭: 第一部第一章「釈尊の生涯と足跡」第一節「仏教以前 (pp.8-12)」) 199p, 2011  
龍谷大学アジア仏教文化研究センター編『アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究 2010年度研究報告書』234p, 2011 (三谷真澄「龍谷大学と旅順博物館の非漢字資料 その意義と保存状況(pp.159-171)」・三谷真澄「大谷光瑞

師のトルコにおける動向調査 ブルサ特別展に参加して(pp.173-178) )

吉田豊・曾布川寛『ソグド人の美術と言語』臨川書店, 320p, 2011 (吉田豊「はじめに (pp.2-3)」・「ソグド人とソグドの歴史 (pp.7-78)」・「ソグド人の言語(pp.79-118)」)

柴田幹夫編『大谷光瑞とアジア—知られざるアジア主義者の軌跡』勉誠出版, 580+xiii p, 2010 (三谷真澄「大谷光瑞とロシア」 pp.94-108)

奈良康明・石井公成編『新アジア仏教史 05中央アジア 文明・文化の交差点』佼成出版, 472p, 2010 (上山大峻「日本の西域探検」 pp.258-262、吉田豊「出土資料が語る宗教文化—イラン語圏の仏教を中心に」 pp.165-215, 429-436)

旅順博物館・龍谷大学共編『旅順博物館所蔵新疆出土漢文浄土教写本集成』(龍谷大学西域研究叢書5) 龍谷大学仏教文化研究所西域文化研究会 (編集三谷真澄・王若) 135p, 2010

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ryukoku.ac.jp/who/detail/657449/>(龍谷大学教員紹介ページ WHO's who)

<http://www.world.ryukoku.ac.jp/kenkyuka/teachers/mitani.html>(龍谷大学国際文化科学研究科教員紹介ページ)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三谷 真澄 (MITANI MAZUMI)

龍谷大学・国際文化学部・准教授

研究者番号: 20411275

### (2) 研究分担者

若原 雄昭 (WAKAHARA YUSHO)

龍谷大学・理工学部・教授

研究者番号: 10183998

上山 大峻 (UEYAMA DAISHUN)

龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員

研究者番号: 00090192

吉田 豊 (YOSHIDA YUTAKA)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 30191620

松井 太 (MATSUI DAI)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号: 10333709

### (3) 連携研究者

市川 良文 (ICHIKAWA YOSHIYUKI)

龍谷大学・文学部・准教授

研究者番号：70440881  
江南 和幸 (ENAMI KAZUYUKI)  
龍谷大学・古典籍デジタルアーカイブセン  
ター・研究フェロー  
研究者番号：70029106  
岡田 至弘 (OKADA YOSHIHIRO)  
龍谷大学・理工学部・教授  
研究者番号：30127063